



ふるさと納税の返礼品として毎月小諸市の広報誌「KOMORO」が送られてくる。2021年2月号に特集として小諸市の基本計画があった。基本計画の基になるのは基本構想である。小諸市の目指すまちの未来像を掲げその実現のための施策を明らかにし、具現化するものが総合計画であり、基本構想・基本計画・実施

## ふるさと小諸の総合計画を思う

### 「市の未来像を示す」基本計画

計画から成っています。小諸市の場合、基本構想は12年毎に策定し、その実現のため4年毎に基本計画を策定。3年毎に実施計画を策定しています。

基本計画6つの柱

- ①子育て教育
- ②環境
- ③健康福祉
- ④産業流通
- ⑤生活基盤整備
- ⑥協働行政経営からなっており。

(詳しくは小諸市のHPを参照)

### ふるさと発展へ会員の力を

東京小諸会の目的は会員相互の親睦と郷土の発展並びに社会文化に貢献することです。この観点から関係ある政策を抜き出してみると以下ようになります。

- ①ではかけがえのない文化財を保存・継承し、積極的に推進する。
- ②では人を感動させ、癒す力を持つ景観や自然環境を、積極的に活用することにより保全につなげる
- ④では農と食のブランド化

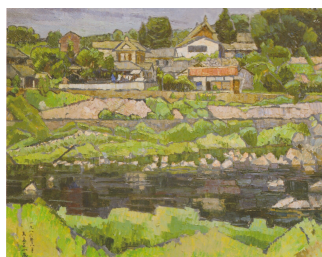
## 東京小諸会重点方針 6項目

- ① 会員の増員を図る … 新規会員の加入促進及び現会員の子世代、孫世代の若返りを図る
- ② HPや四季報等の媒体を通じ、東京小諸会と小諸との連携を密にする
- ③ 小諸ふるさと市民、子どもふるさと市民を推進し、小諸の訪問を推進する
- ④ ふるさと納税を積極的に推進し、小諸の観光及び産業に貢献する
- ⑤ 東京小諸会総会を魅力的にし、参加者の増加を図る
- ⑥ 東京小諸会 60 周年 (令和 4 年) 記念事業を検討する



## 小諸市民の文化の中心地

の著名画家の作品もある。小諸市の誇る洋画家小山敬三画伯の懐古園脇の小山敬三記念館と対をなす小諸市の誇る絵画美術館である。この美術館は小諸市や近郊の美術愛好家の中心となっており定期的に市民美術講座や作品展が開催されていて、大勢の市民が集い絵画等の文化の学びに親しみ興じている。近隣の風景とともに訪れて楽しんで欲しい文化施設である。



矢嶋正一先生の作品

## まなびのまち 造形講座作品展

市長らテープカット



小諸市では「スケッチ文化都市こもろ」と銘打って「まなびのまち造形講座」の活動を支援している。その一例である令和2年度まなびのまち造形講座作品展

が令和3年2月21日に小諸市からは小泉市長、清水市議会議長等が出席してテープカットした。写真上。出展講座は、日本画(中級・水曜会 日本画(上級・火曜会) 洋画(基礎・水彩) 洋画(中級・水彩・彩文芸) 書道(基礎) 書道(中級) 土の夢(陶芸 陶友会(陶芸) デッサン(基礎) の10講座で参加作品は120作品。

筆者の中学校の恩師である矢嶋正一先生(元小諸市教育長)から案内をいただき、妻と訪問した。先生は93歳のご高齢でもあるがこの会の講師陣の中心的存在であり、当日も市民講座の生徒(といっても60歳以上の生徒であるが)の作品の展示に一点一点講評を丁寧に行っていた。年を重ねて益々である。

小諸は島崎藤村や高浜虚子等文学でも有名であるが、絵画等の芸術も顕著である。(松日記)

## 編集後記

コロナ禍の中、懐古園の桜祭りも静かにゆく春を惜しむことになろうか。毎年この時期になると懐古園の桜で春を実感するのが故郷をはなれてもの小諸人かも知れない。今昔の家族や友との思いが日増しに懐古園の桜と共に脳裏に強く浮かんでくる。同時に浅間山や千曲川も春を迎える。山は芽生えが鼓動し、川は水温む。市の木「梅」は盛りを終わりこぶしが彩り始める。市の花「こもろすみれ」は可憐な花を咲かせ道行く人の心を和ませます。全て自然であり、全て小諸であり、全て故郷であり、山川草木悉皆故郷である。コロナ禍で故郷訪問が制限される今こそ、心の中に故郷の自然、共に過ごした父母や家族、恩師や友の思いに馳せ、故郷小諸への感謝と思いを深めたい。

ふるさとの山に向ひて言うことなし ふるさとの山はありがたきかな(啄木)



## 私の青春と故郷の景色

桜の花、果樹畑の桃や林檒、梨の花が咲き、まさに美里の美しい春である。夏、秋は収穫。葡萄の実の甘さは、その木の下で家族でBBQをした楽しい時間を呼び起こす。

冬はスケート・スキーが最高の遊びだ。幼い頃、スケートは田んぼで、スキーは山道の傾斜を利用して滑

## 私の思い出

## 坂の町小諸

小諸とは雨の涼しき坂の町（富安風生）。

◇

この句は私の胸にストンと落ちた。童心に坂の上の方から見た小諸の風景の記憶が残っている。この句を覚えて呉れたのは小山平六副会長。俳人の富安風生は



た。少し大きくなると次は電車で軽井沢のスケートセリターまで行き、浅間山を背に思い切り滑って爽快な気分になった。社会人になってスキーは雪平・湯の丸へ上達したので、志賀高原、白馬、妙高へも足を延ばした。志賀高原はテレビで見たヨーロッパの景色そのものと感激したのを覚えている。山の上へ登り空を仰ぎ、今度は下へ一気に滑走、

## 聖火ランナー

1964年、当時高校生  
の私は東京五輪の聖火ラン

一度だけ出た  
東京小諸会

あれから三十余年  
麗人今いずこ

公民館二年、教育長六年やる間に、東京小諸会に出たのは一度だけ。貸切バスで、行きは静かであった。酒が入った帰りは、懇親会の続きで普段交流の出来なかった市議さん等と話が出たり、その収穫も大であった。

突然黒衣の麗人現れる  
総会は如水会館。宴会に  
なり注いで歩いた。

矢嶋正一（93才健康優良児）  
元小諸市教育長

ナーとして国道18号線を走る機会を頂いた。私の人生の中の忘れがたい思い出のひとつである。今年も東京五輪が開催されることを願うばかりである。

中村六子（三岡出身）

所が、突然私の前に黒いドレスの麗婦人が現れたのである。銀座で宝石商をしておられるという。小諸の井子のご出身という。

婦人は語り出した。「今日、ここに出席しておられる方々は、皆成功した人達です。それは、それぞれ才能もあつたでしょうが、努力に努力を重ねて、今日がある。努力の上に東京小諸

会はあるんです。聞いてる中に麗人がだんだん神々しくなってきた。あれから三十余年。もしご健在ならば、お会いして続きをお聞きたい。黒衣の麗人今いずこ。

元小諸市教育長

ふるさと偉人

気品ある女性美を描く

画伯・白鳥映雪  
しらとり えいせつ

日本芸術院会員

白鳥映雪（1912〜2007）現在の小諸市滝原生。幼名九寿男。幼くして両親を亡くし、昭和7年家

## 教育に地域発展を託す

## 人材育成を主眼に近代教育実践

長野は昔から教育県として名高い。名山・名川など自然豊かな信州ですが、新潟のような米どころではなく、教育に地域の発展を託したのでしょうか。長野の教育でまず思い浮かべるのは、島崎藤村が教鞭をとった小諸義塾です。義塾とは「身分の区別なく教育を受けられる

族の反対を押し切り上京。伊東深水門下に入る。困難な生活苦に耐えながら画業に専念、31歳にして第6回文展に弟の海軍士官を描いた「生家」が初入選。

昭和25年「立秋」、同32年「ボンゴ」が日展で特選、白寿賞を受ける。昭和40年日展会員、昭和58年日展評議員、74歳の折り「寂照」が内閣総理大臣賞を受賞。

平成5年度日展参与。平成6年出展作「菊慈童」で日本芸術院恩賜賞を受け、平

成9年日本芸術院会員に推挙される。平成10年日展顧問。同年小諸市名誉市民に推挙される。

平成15年勲三等瑞宝章を受賞。平成19年6月15日没（以上記念館略年譜より）

美術館の玄関表面にモダンな女性二人の等身大の作品「波止場」が掲げてあった。前に来たとき幽玄の世界の能のような気がしたが記憶は定かでない。画伯の作品は人物画中心。モダンな女性から舞子、日本女性

らわれれない、人材育成を主眼とした近代教育を

実践しました。熊二の共立学校（現、開成高校の前身）時代の教え子の島

崎藤村は、明治32年に英語教師として赴任し、小

諸に6年間滞在しています。当時の先進的な教育の息吹を実感するには、

小諸駅と懐古園のほど近くに復元移築された小諸

義塾記念館がお奨めです。

元共栄大学副学長

内藤 徹雄

## うしろを向いて歩こう

おもて苦しい一年がゆくに過ぎている

永六輔は戦時中、南大井（三岡）に疎開終戦の翌年、13才で旧制上田中学へ通った。上級生のいじめに遭った

汽車の乗換えの間に懐古園で一人佇むいじめられた悔しさを涙が口ポロで書きとめた名曲「うしろを向いて歩こう」はこうして生まれた

東日本大震災、そして今また元気が欲しい時世この歌は辛さを乗り越えたい人々への励ましとなつて

いる

ふらふらと帰ってみよう  
そつぎめした時  
心は野山を駆けている

春風がそよぐ  
芹沢のせせせりが聞こえる  
野じりには寒さに耐えてきたか  
野岸のはこへは萌えているか

あつた幸せや悲しみ、なにげない喜びや驚き、  
誰もが普通の日々を待た望んでいる  
まことの春はすぐそこだ



神津久幸（鶴巻町出身）

3

2